



## 非認知能力向上事業検証会議（2月25日）

東京と豊岡をオンラインでつなぎ、今年度の検証会議を開催しました。東京からは、青山学院大学教授 荻宿俊文氏、同大学特別研究員 望月玲奈氏、演出家（NPO法人パブリック理事）わたなべなおこ氏にご参加いただきました。

### 【検証結果】

- ①演劇ワークショップの後に「協働性」「自制心」は確実にプラスの変化がある。「自己効力感（やり抜く力）」も高い数値が出ており、確実に変化が起こっている。
- ②演劇ワークショップの事前から事後にかけて、どのような子どもたちがどのあたりに集まり、どう変化しているかを「ヒストグラム調査」で見えていく必要がある。

会議には、青年団の村井まどか氏と福田倫子氏も参加し、子どもたちの変容やプログラムについてご意見をいただきました。わたなべ氏からは「日々の学校生活での子どもたちの変容が演劇ワークショップでも強く反映される。」とのお話がありました。また担任の先生からは「演劇ワークショップの中で意見を受け入れてもらい、ひとつのものをみんなで創る。見てくれる友達がいる、褒めてくれるファシリテーターの方がいることで安心して過ごせた。その体験が日常の自分たちの生活に活かせ、自分たちで解決できる力になっている。」との声もありました。



次年度へ向けて、学校規模等を考慮したプログラムの修正、ファシリテーターと担任との連携など課題をクリアしながら、モデル校で実践を進めていくことを確認しました。

### 教科の学びをより豊かに（コミュニケーション能力育成の4つの視点を活かして）

豊岡市学力向上検討委員会国語部会で、「めざすコミュニケーション能力の視点と活動例国語版」を作成しました。全教科版とあわせて、各校でご活用ください。

兵庫教育大学大学院 勝見健史教授からも以下のように指導を受けました。

- ①めざすコミュニケーション能力育成の視点を意識した活動を入れることで、国語科（教科）の時間の学びがより豊かになる。
- ②あくまで国語科（教科）の目標・内容の獲得、ねらいの達成を第1義とする。コミュニケーション能力育成の視点を目標化（目的化）しない。

国語部会では、活動として取り入れやすいものを選定し、令和2年度版として、先生方へご提案することとしました。教科指導の中で実践できているか、この表を参考にしながら、全教科版と合わせて、ご活用いただきますようお願いいたします。

【お礼】コロナ禍でご多忙の中、各研修会や各委員会へのご参加、本当にありがとうございました。